

Ⅶ 魚礁設置適地調査

Ⅰ 調査目的

魚礁を設置するにあたり、投資効果を高度に維持するため自然的、社会的環境条件を把握することを目的とする。

Ⅱ 調査内容

1. 調査期間 昭和49年4月～昭和50年3月
2. 調査場所 泊沖, 岩崎沖, 三沢沖, 大戸瀬沖
3. 調査員 技師 小田切 譲 二
" 沢 田 兼 造
" 高 梨 勝 美
4. 調査船 泊沖 試験船 瑞鷗丸 (40.81 トン D 170 馬力)
備 船 喜漁丸
三沢沖 試験船 幸洋丸 (121.22 トン D 400 馬力)
岩崎, 大戸瀬沖
試験船 青鵬丸 (19.94 トン D 170 馬力)
5. 調査項目
 - (1) 事前調査
 - (2) 海上調査 水深 (海底地形) 底質
6. 調査方法
 - (1) 事前調査
関係組合および漁業者から魚礁設置に関する要望、付近漁場での操業状況を聴き調査実施上の参考とした。
 - (2) 海上調査
事前調査結果に基づき、水深底質図 (当场作成) で検討のうえ調査区域を定め、この区域内を8方位に走航し、魚探により水深、海底地形を、採泥器により底質を調べた。

Ⅲ 調査結果

1. 事前調査
 - (1) 泊 沖
○中山崎から出戸沖にかけて天然礁が点在している (水深50～60 m)
○天然礁では無動力船及び小型動力船がソイ、アイナメ、タラを対象に一本釣漁業を行なっている。
○水深45～60 mに魚礁を設置してほしい。
 - (2) 岩 崎 沖
○メバルの漁場となっている天然魚礁 (沖の瀬) と関連を持つ位置を希望する。
○回遊魚のスズキ、ヤリイカの付きが期待できる位置を希望する。
○対象魚種はソイ、メバル、タイ、スズキ、ヤリイカ
○水深60～80 mに魚礁を設置してほしい。
 - (3) 大 戸 瀬 沖
○対象漁業は釣だけとし、ヤリイカの誘導礁としたい。
○大戸瀬～田野沢沖合の水深40～50 mに魚礁を設置してほしい。

(4) 三 沢 沖

○既設大型魚礁と関連を持つ位置を希望する。

○釣, 刺網漁業を対象とする。

2. 海上調査

事前調査の結果をもとに, 水深底質図を参考にして調査区域を定め調査を実施した。

(1) 泊 沖

a 水 深……………第1図

b 底 質……………第2図

c 利用漁港, 天然礁との位置関係……………第3図

(2) 岩 崎 沖

a 水 深……………第4図

b 底 質……………第5図

c 利用漁港, 天然礁との位置関係……………第6図

(3) 大 戸 瀬 沖

a 水 深……………第7図

b 底 質……………第8図

c 利用漁港, 天然礁との位置関係……………第9図

(4) 三 沢 沖

a 水 深……………第10図

b 底 質……………第11図

c 利用漁港, 天然礁及び既設大型魚礁との位置関係……………第12図

3. 適地の判定

(1) 泊 沖

○場 所 Mg c o, 172° 7,000 m

○水 深 65 m

○底 質 貝殻まじりの砂

○適地選定の条件

A 共同漁業権外にある。

B 底びき網漁業禁止区域内にある。

C 水深72 mは釣漁業の利用可能範囲内である。

D 底質は貝殻まじりの砂でありブロック埋没の恐れは少ない。

E 天然の根の延長線上に位置し利用漁場が拡大される。

F 現在利用されていない出戸沖の根と北川の根の中心に位置し, 集魚効果と一層の漁場の拡大化をはかることができる。

(2) 岩 崎 沖

○場 所 汐ヶ島 W 4,700 m

○水 深 69 m

○底 質 泥 砂

○適地判定の理由

A 共同漁業権外にある。

B 底曳網漁業禁止区域内にある。

C 水深69 mは釣漁業の利用可能範囲内にある。

D 底質は泥砂であり, ブロック埋没の恐れは少ない。

E 天然の根(沖の瀬)に近く相互に関連を持つ位置にある。

F ヤリイカ、スズキの回遊路にあたり、集魚が期待できる。

(3) 大戸瀬沖

○場所 鎧島N 1,800 m

○水深 44 m

○底質 貝殻まじり粗砂

○適地判定の理由

A 共同漁業権内にあり、田野沢、北金ヶ沢両漁民が使える。

B 付近にあるヤリイカ漁場の拡大化になる。

C 底質は粗砂でありブロック埋没の恐れは少ない。

(4) 三沢沖

○場所 鯨角Mg 347.5° 13,000 m

○水深 43.2 m

○底質 貝殻まじりの砂

○適地判定の理由

A 共同漁業権外にあり、関係漁協が共同で利用できる。

B 水深は43.2 mで釣漁業により、また付近海域では刺網漁業による利用が可能である。

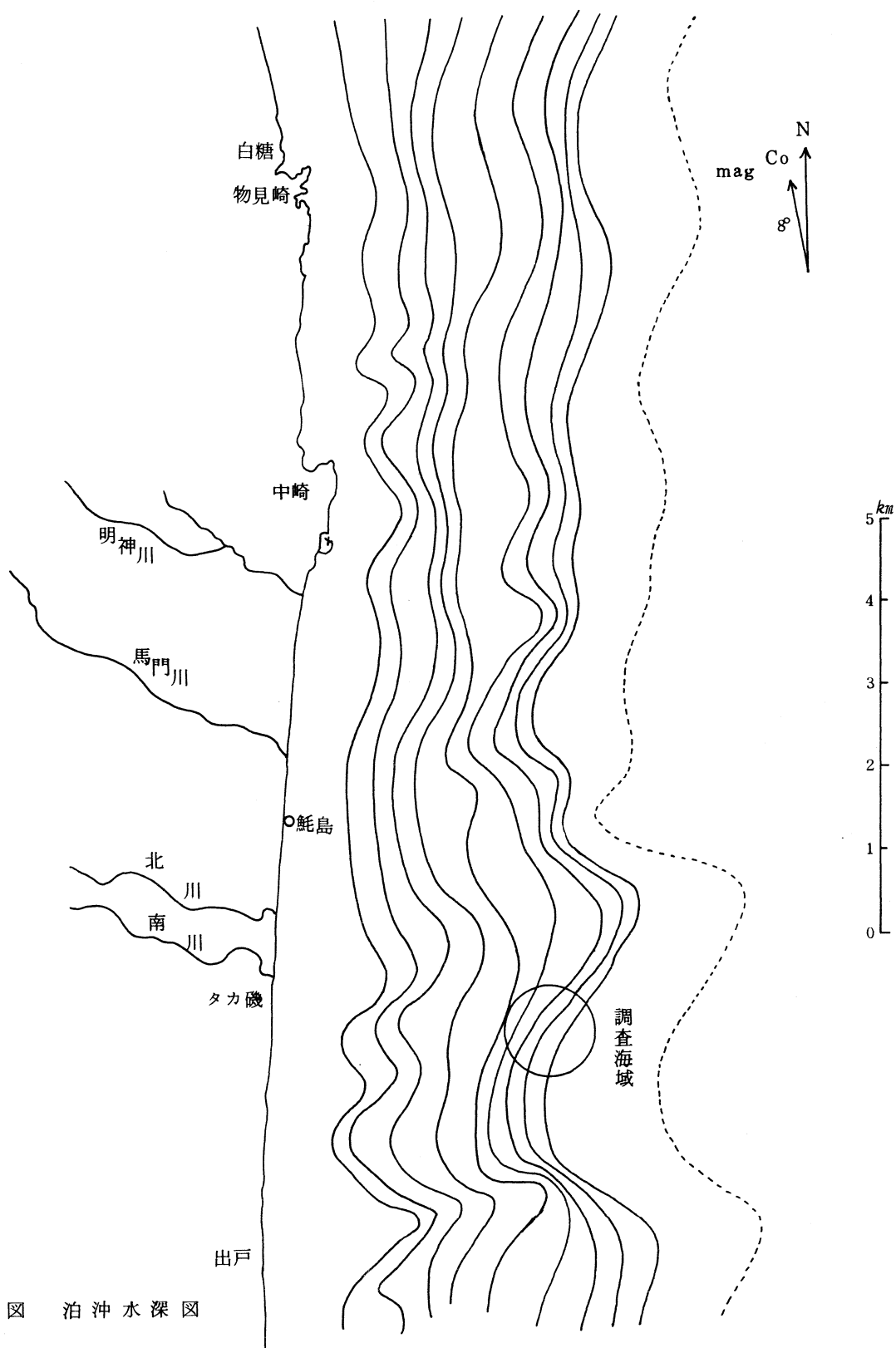
C 底質は貝殻混り砂であり、タイヤ礁の埋没する恐れは少ない。

D 二川目沖大型魚礁から2.5 km、天然魚礁から約3 kmの位置にあり、3者が相互に関連し合い、集魚効果が一層高まる。

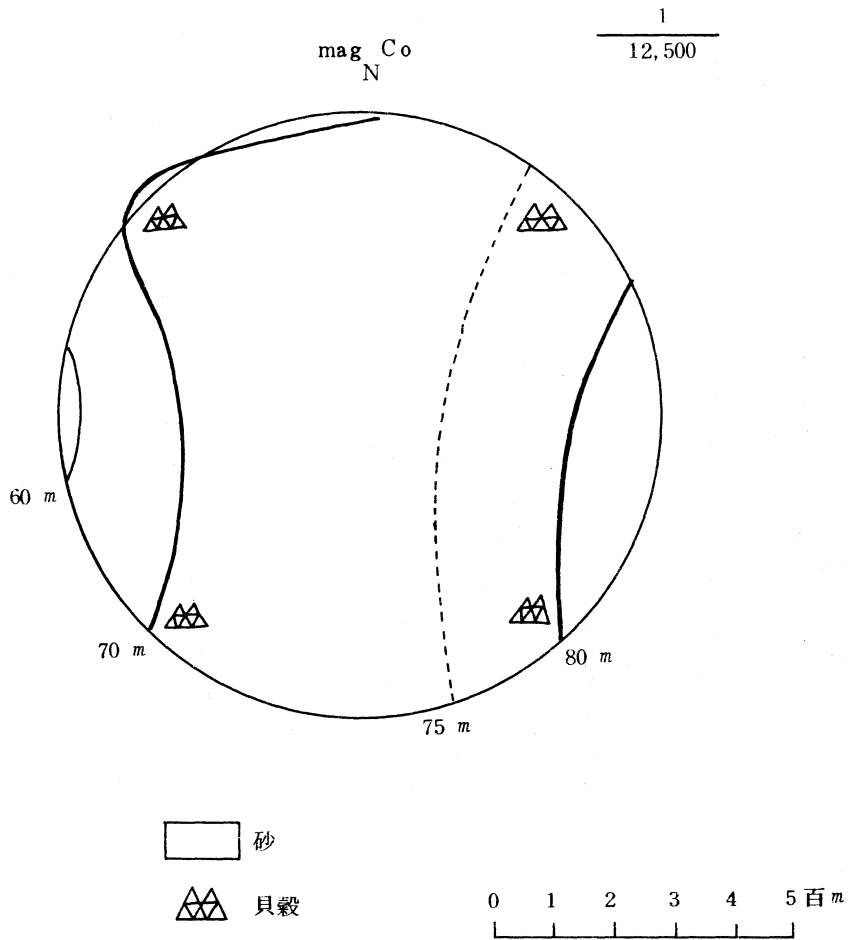
V 調査の成果及び今後の課題

1. 調査の成果

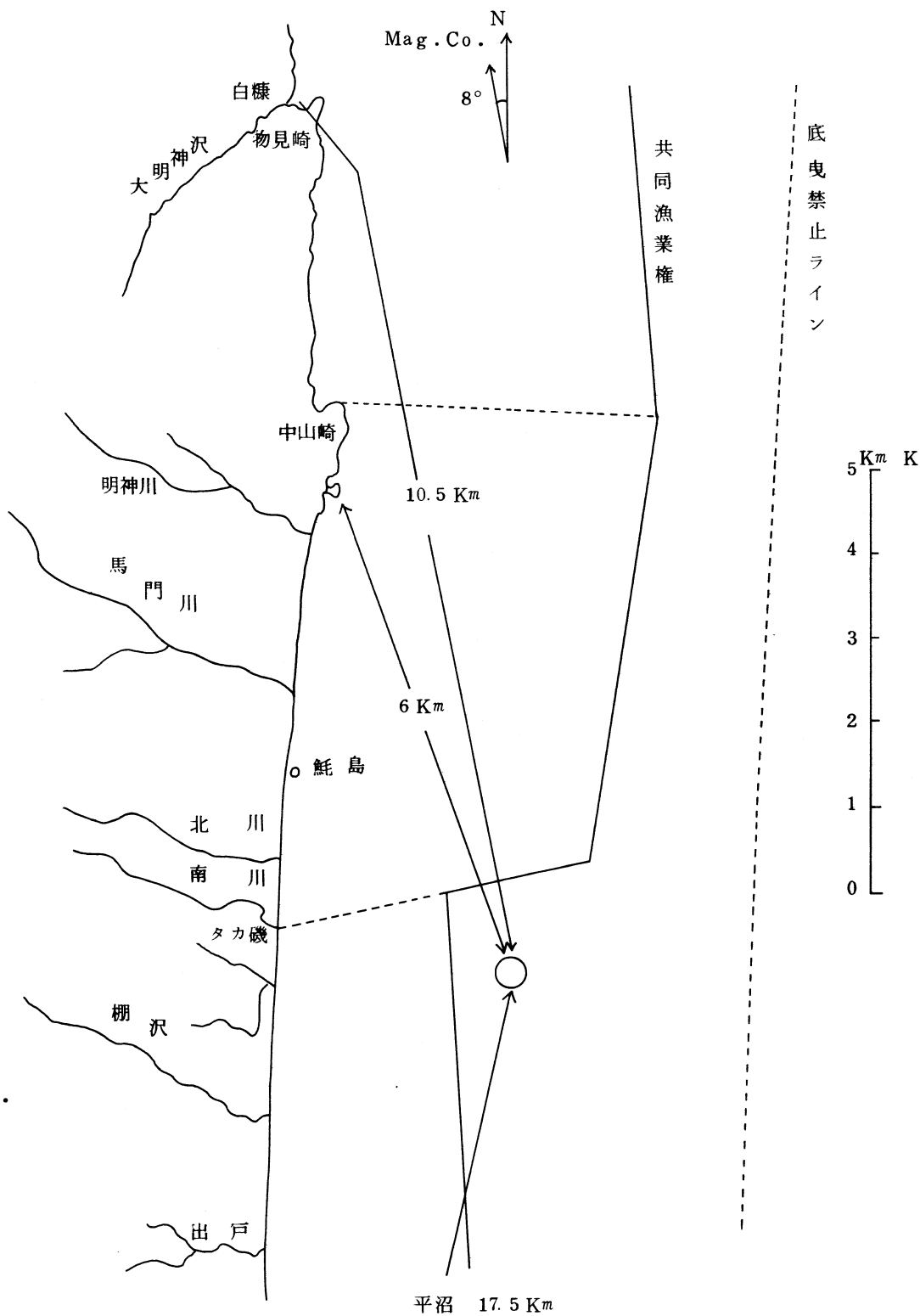
大型魚礁2ヶ所、タイヤ誘導礁2ヶ所の魚礁設置適地を選定し、同位置に本年度設置が決まった。



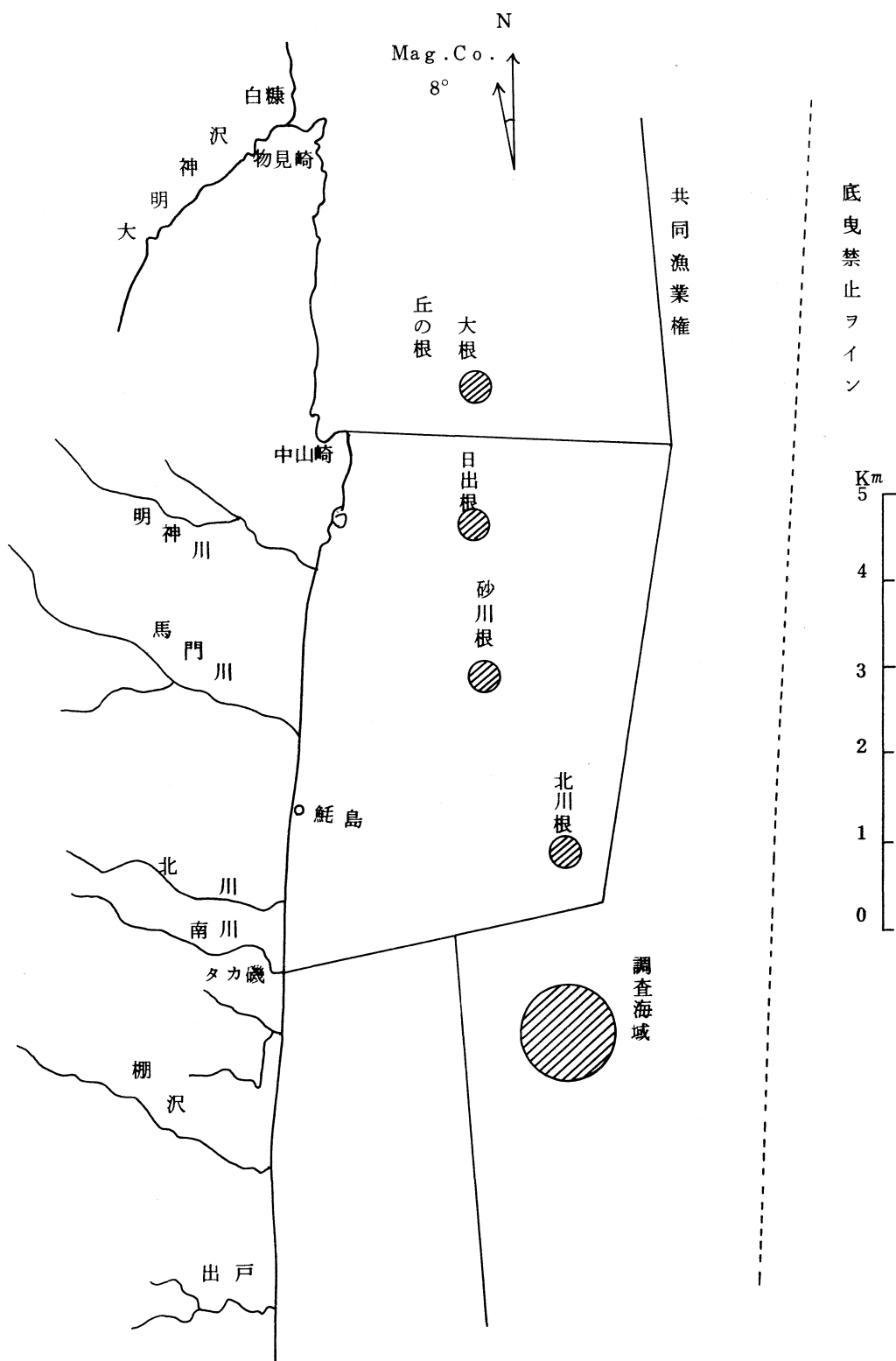
第1図 泊沖水深図



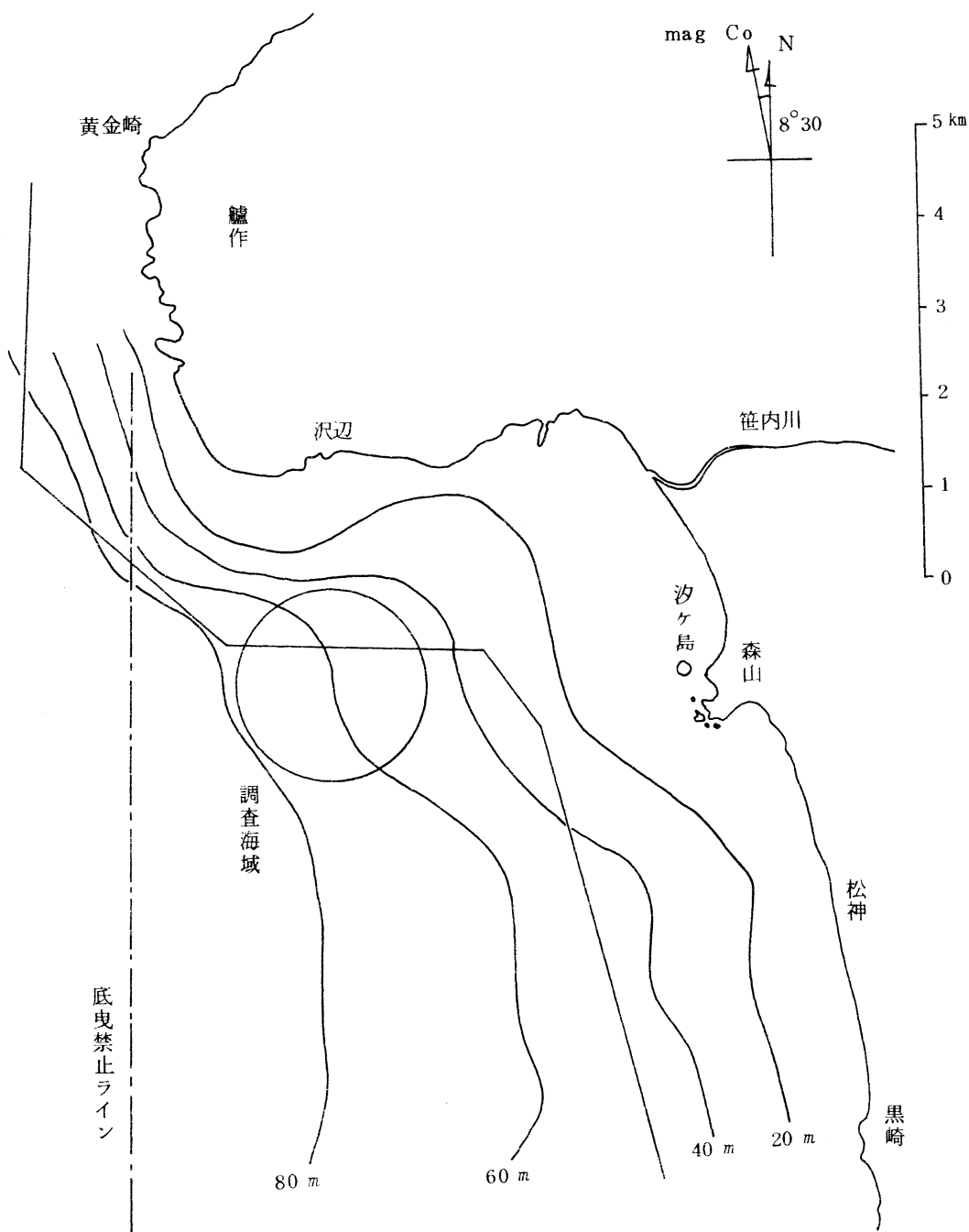
第 2 図 泊沖水深底質図



第3図の1 泊沖大型魚礁適地

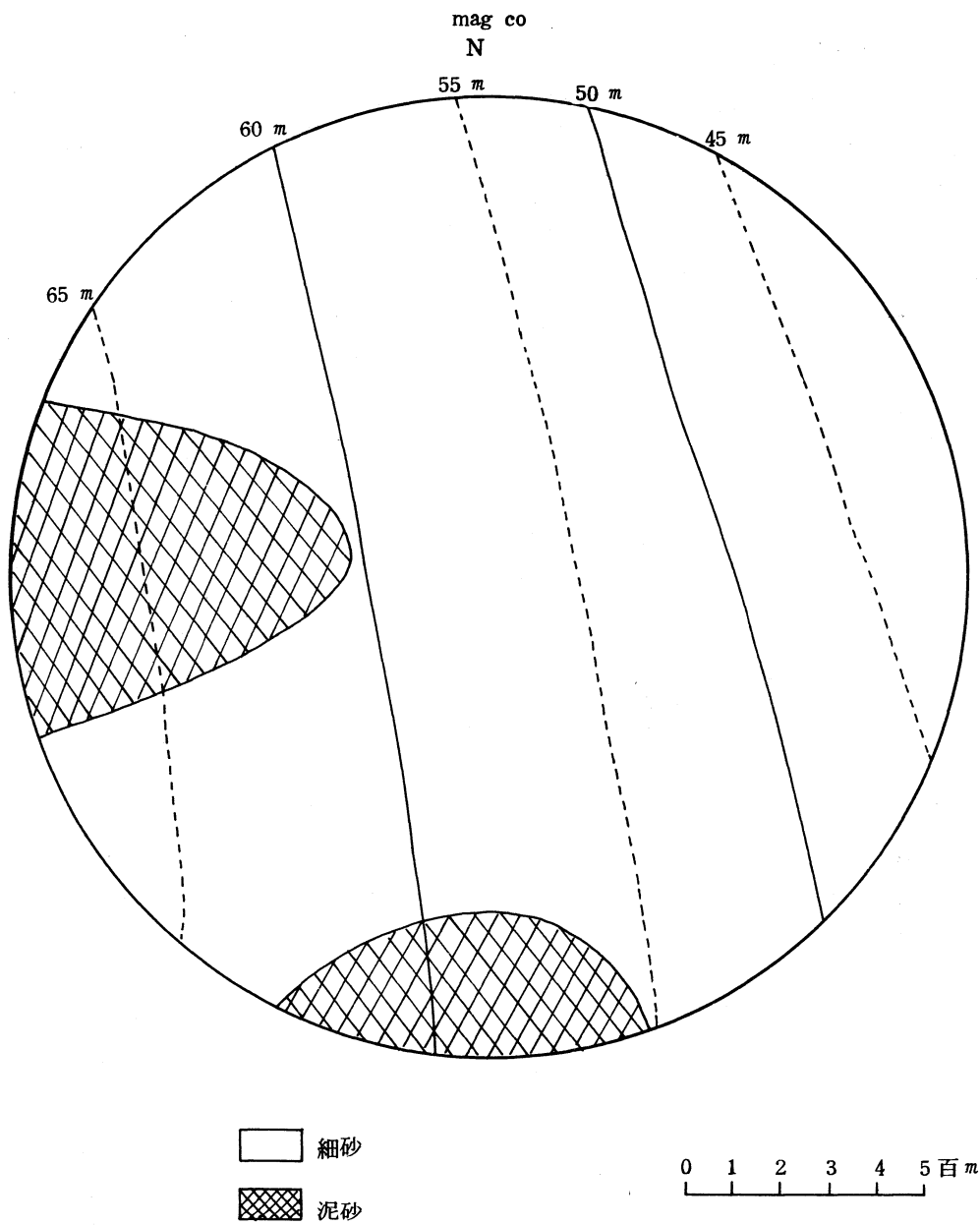


第3図の2 泊沖天然礁との位置関係

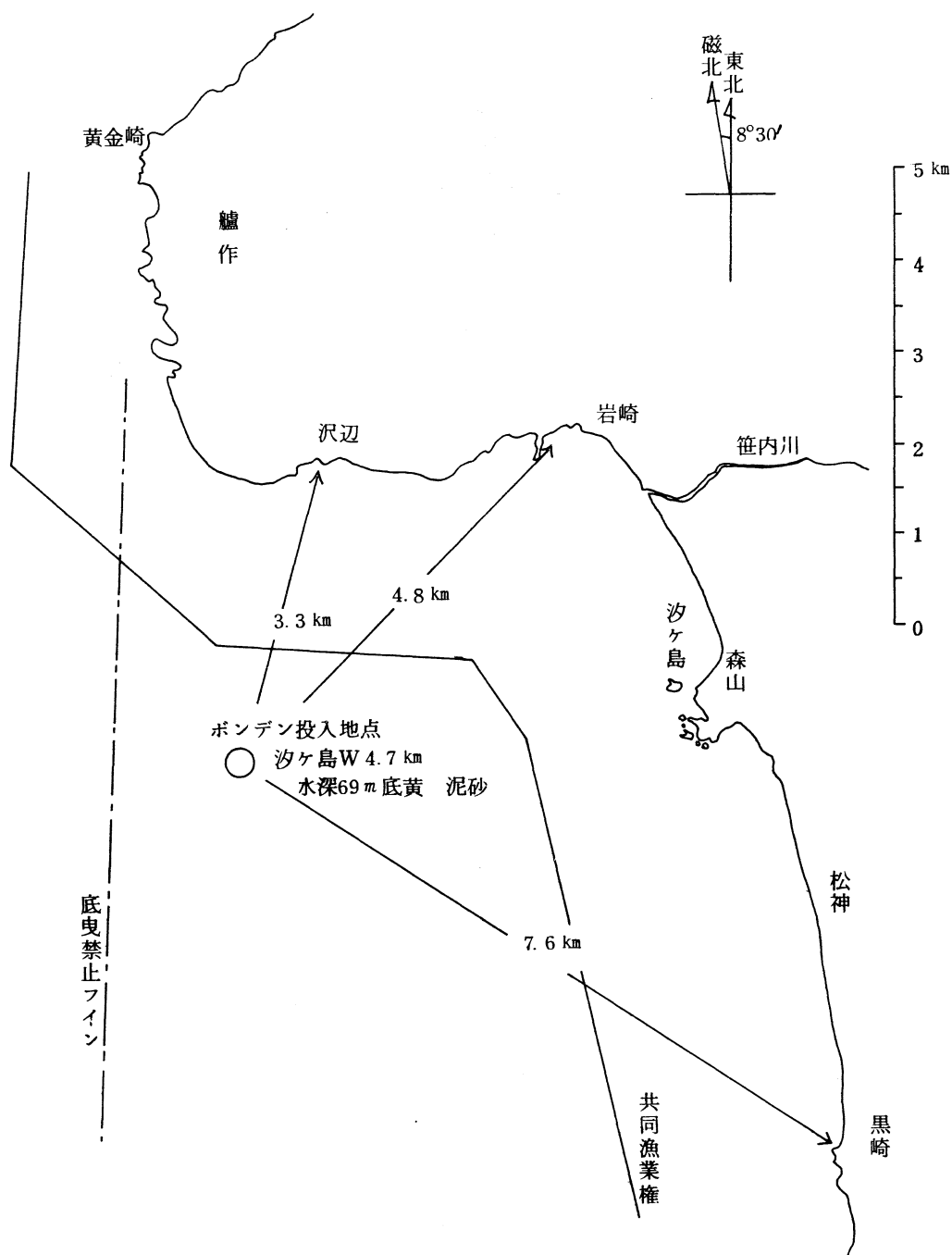


青水試 水深底質図より

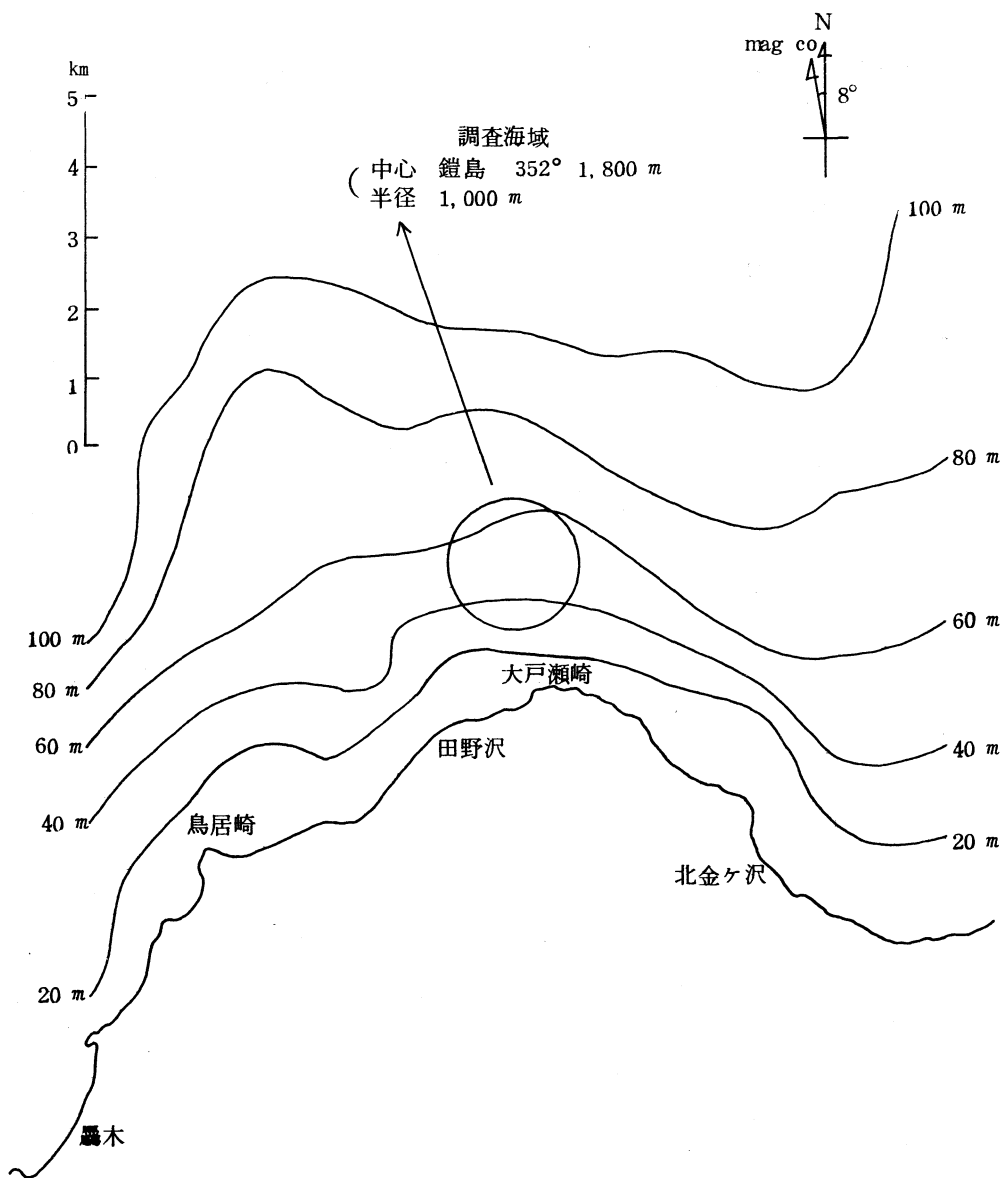
第4図 岩崎沖水深図



第 5 図 岩崎沖水深底質図

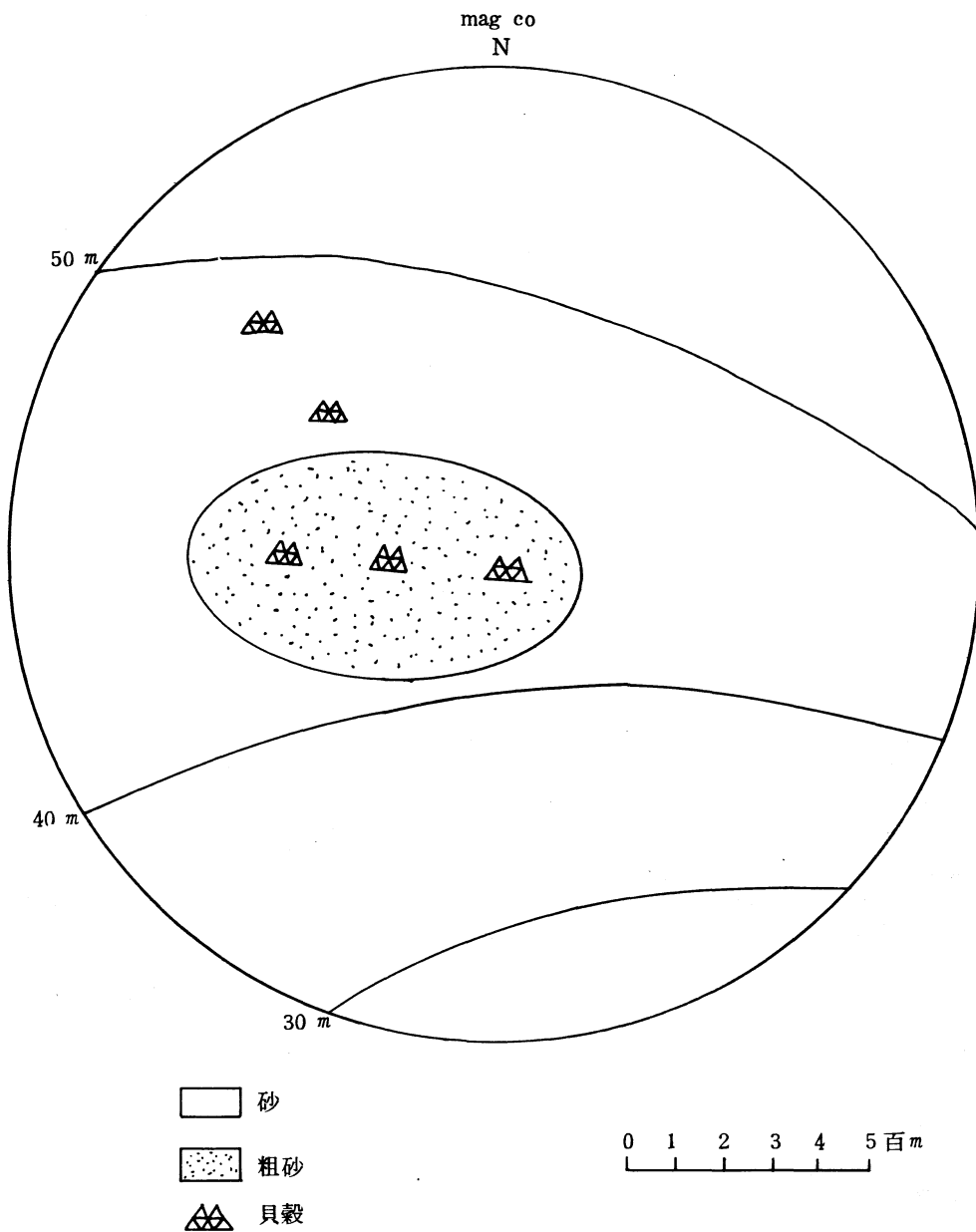


第6図 岩崎沖大型魚礁適地



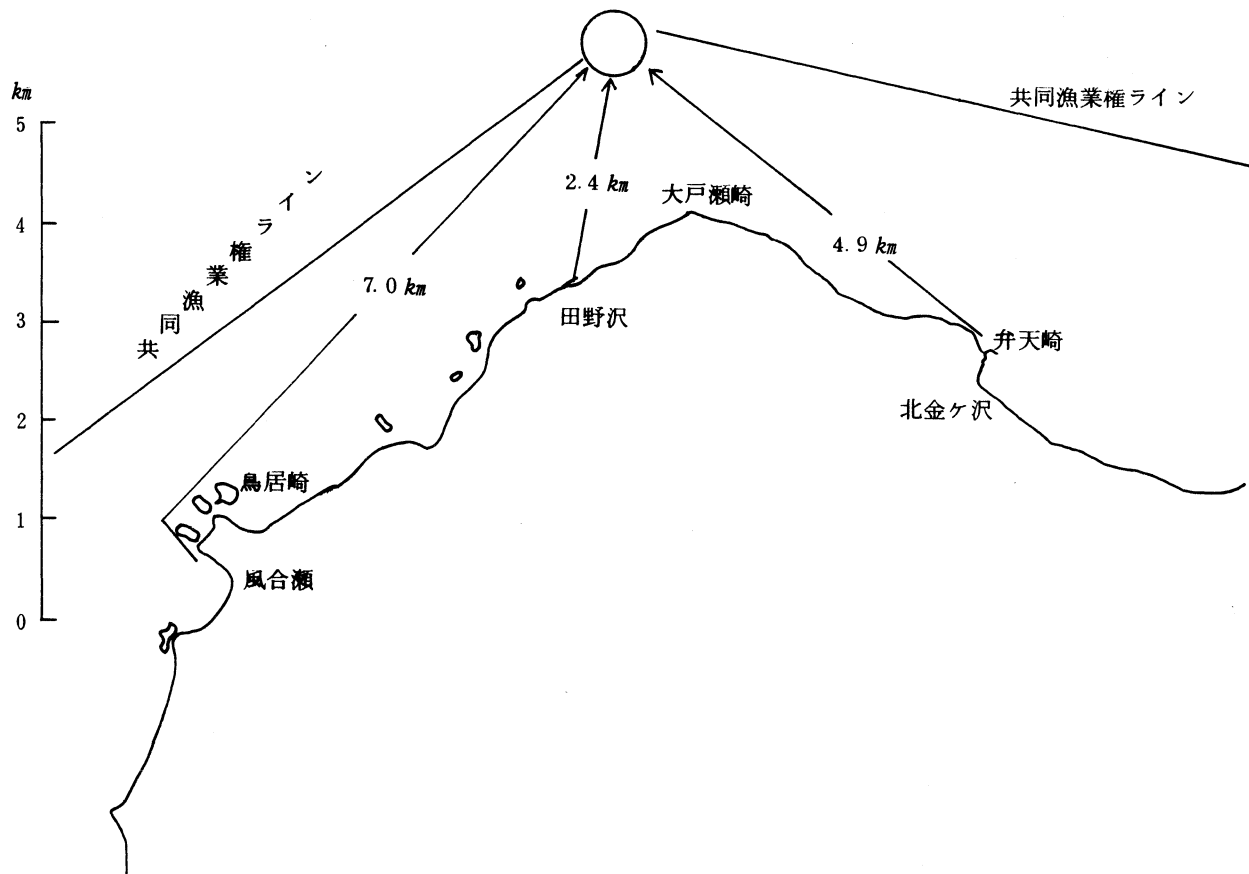
青水試 水深底質図より

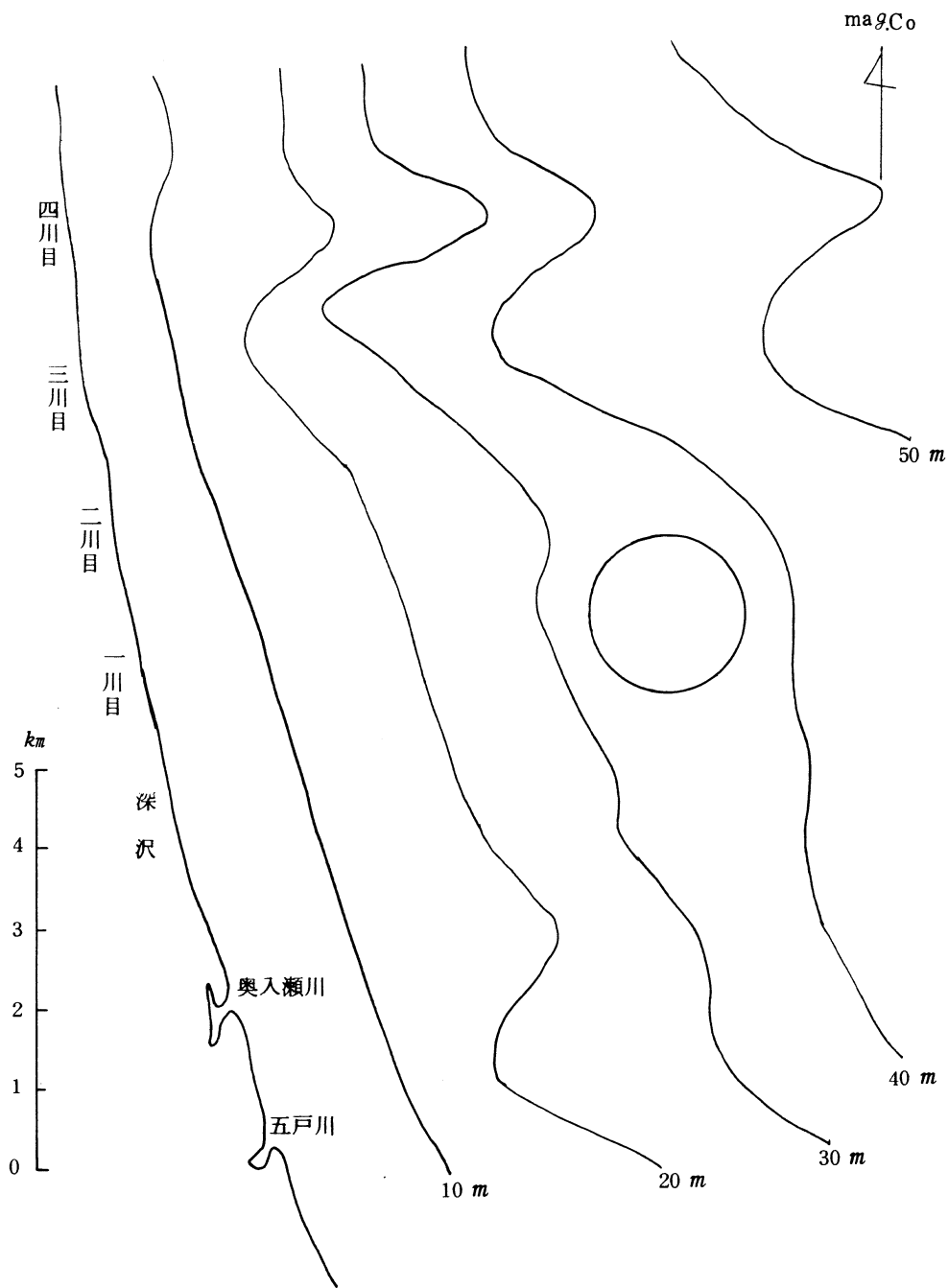
第7図 大戸瀬沖水深図



第 8 図 岩崎沖水深底質図

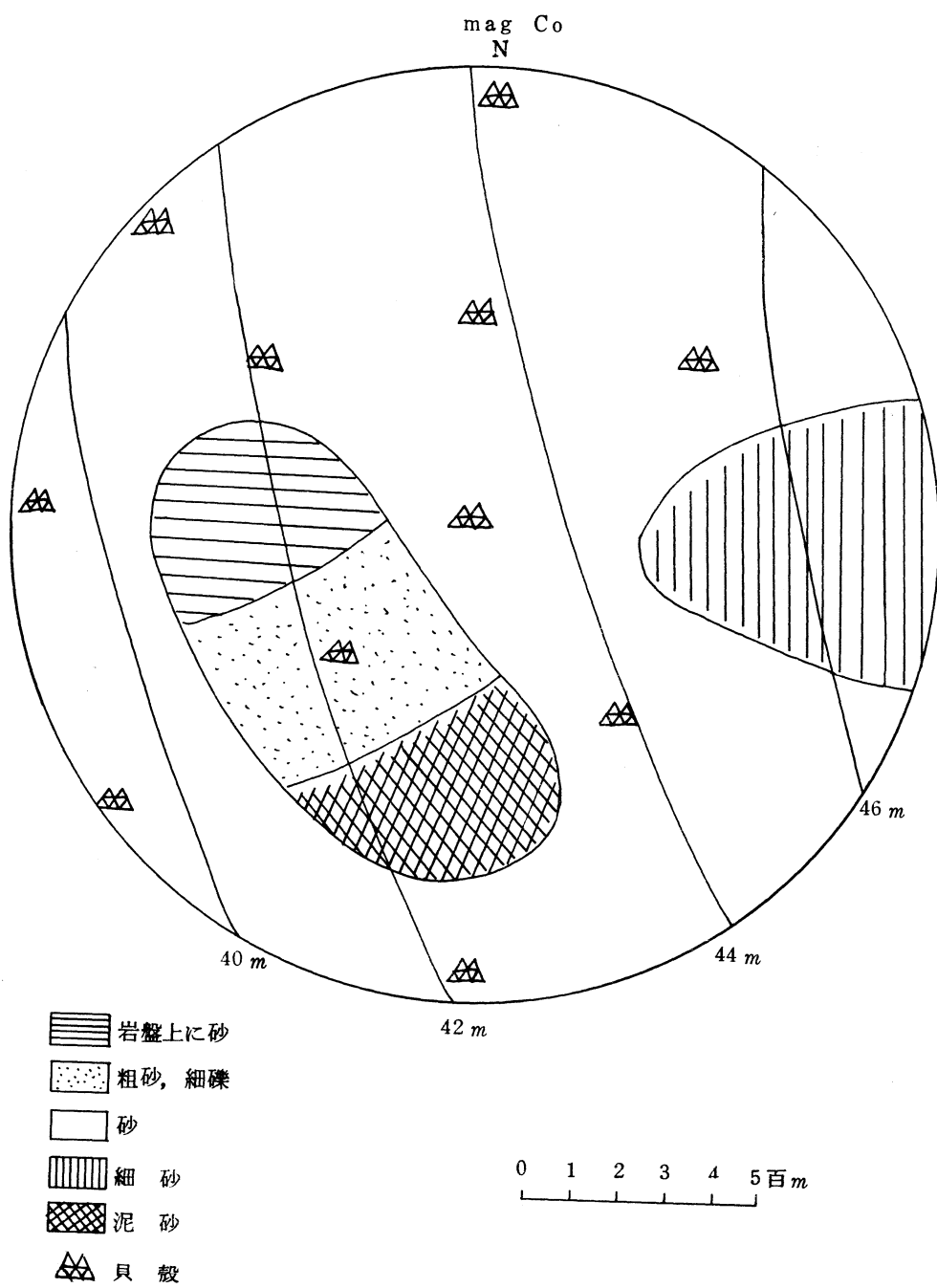
第9図 大戸瀬沖タイヤ礁適地



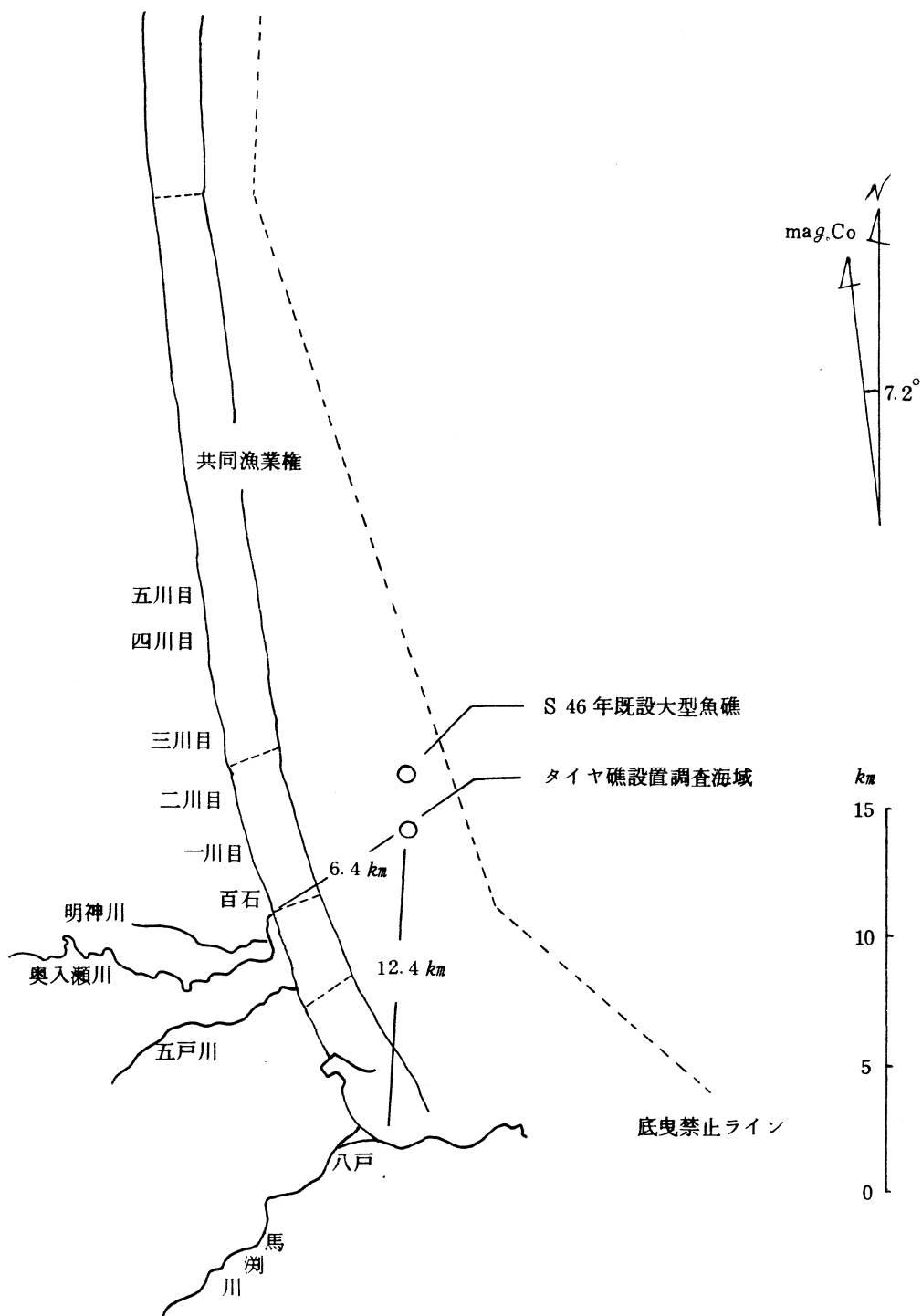


青水試 水深底質図より

第10図 三沢沖水深図



第 11 図 三沢沖水深底質図



第 12 図 三沢沖誘導礁適地